

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

西暦 2019年 5月 29日作成

研究課題名	肺炎患者に対して血液培養の有用性の検討. (多施設共同後ろ向きコホート研究)
研究の対象	2011年1月から2018年12月までの間に、肺炎で入院された症例. 当時18歳以上の患者さん.
研究目的 ・方法	成人肺炎診療ガイドライン 2017 は肺炎患者に対して血液培養を推奨されましたが、今までの研究では日本人以外を対象としており、年齢、重症度、併存疾患など背景因子の調整ができておらず、血液培養以外の微生物学的検査の影響も考慮されていません。また血液培養の結果がその後の診療にどのように影響を及ぼすかは個人や医療機関の判断に委ねられるため、エビデンスは十分ではないと思われます。 そこで本研究では、入院が必要になった肺炎を対照とし、臨床現場のデータを調査します。血液培養の有無を分けて肺炎の予後を考察し、血液培養の有用性の有無を確認します。肺炎の入院患者のカルテを参照し、下記の検査データ（既存の情報のみ）を観察するものであり、研究に伴う侵襲はありません。
研究期間	西暦 2019年 7月 18日（承認日） ～ 西暦 2020年 3月 31日
研究に用いる 試料・情報の 種類	研究に用いる情報は過去の情報で、診療録から抽出します。 （肺炎重症度、入院期間、血液データ（WBC、CRP）、基礎疾患、年齢、性別、BMI、社会的背景。） 本研究は主に血液培養の有用性を調査する目的としており、血液培養群と非培養群の死亡率の有意差が主要評価項目です。他に肺炎の重症度や入院期間などの有意差も考察します。
外部への 試料・情報の 提供	外部への情報の提供はありません。
外部からの 試料・情報の 取得と保管	参加施設において研究対象者個人が特定できないように匿名化された調査票・組織標本は、研究者が直接手渡しするか郵送します。本研究のために収集したデータは、本研究の終了日から5年後又は本研究の結果の最終の公表について報告した日から3年後のいずれかの遅い日までの間、施錠できる保管場所で保存し、その後に紙媒体はシュレッダーで廃棄、電子データについては物理的に再生不可能な形にして破棄します。

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

研究組織	研究代表施設：横浜市立大学附属病院 呼吸器内科 陳 昊 参加施設：横浜市立大学附属市民総合医療センター 呼吸器病センター 工藤 誠 その他13施設
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 呼吸器内科 （研究責任者）陳 昊 電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-787-4601</p>	